

【品川区】胃がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく胃がん検診の実施状況>

対象年齢(40歳以上)	している
検査方法(胃部X線検査)	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	96,376	106,508	202,884
【東京都調査による対象者率(区部): 60.5%】			
実際の受診者数	1,893	1,855	3,748

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	ペプシノゲン検査及びヘリコバクターピロリ菌検査

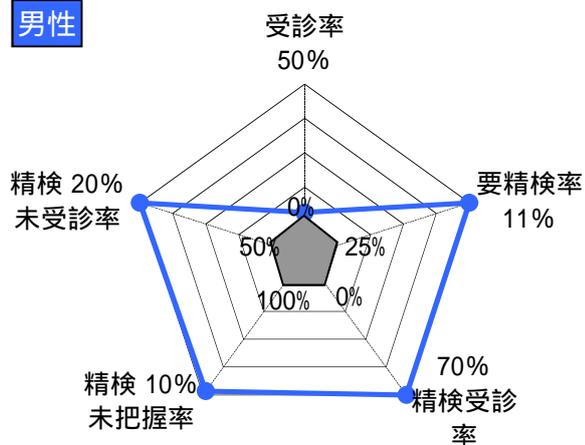
<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	一部該当
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

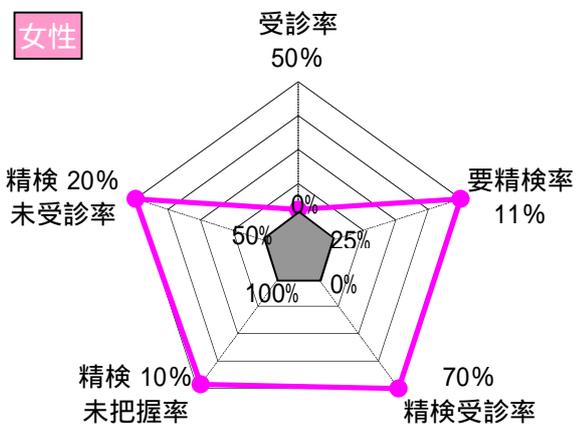
<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	3.2%	2.9%	3.1%
要精検率	11%以下	9.3%	5.6%	7.5%
精検受診率	70%以上	86.9%	86.5%	86.8%
精検未把握率	10%以下	13.1%	13.5%	13.2%
精検未受診率	20%以下	0.0%	0.0%	0.0%
陽性反応適中度	1.0%以上	3.4%	2.9%	3.2%
がん発見率	0.11%以上	0.32%	0.16%	0.24%

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<精検未把握率>

精検未把握率が許容値達成まであと一歩です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握を進めましょう。

【品川区】肺がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく肺がん検診の実施状況>

対象年齢(40歳以上)	している
検査方法(胸部X線検査及び喀痰細胞診)	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	96,376	106,508	202,884
【東京都調査による対象者率(区部): 66.6%】			
実際の受診者数	3,936	6,143	10,079

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	胸部X線またはヘリカルCT (選択制)

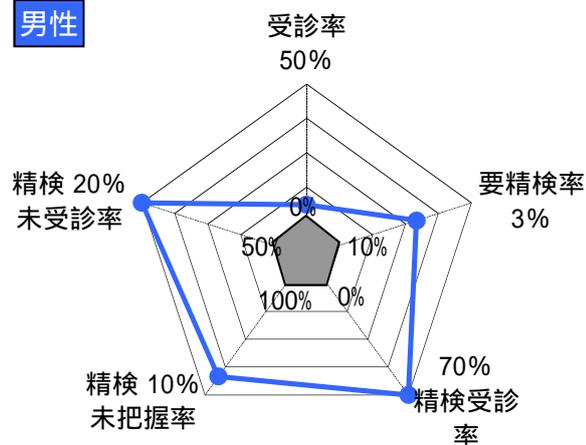
<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	一部該当
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

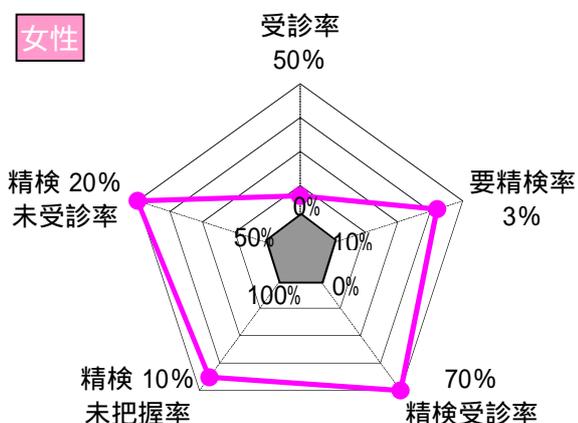
<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	6.1%	8.7%	7.5%
要精検率	3%以下	5.9%	4.4%	5.0%
精検受診率	70%以上	75.1%	79.2%	77.3%
精検未把握率	10%以下	24.9%	20.8%	22.7%
精検未受診率	20%以下	0.0%	0.0%	0.0%
陽性反応適中度	1.3%以上	1.7%	0.7%	1.2%
がん発見率	0.03%以上	0.10%	0.03%	0.06%

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検未把握率>

高めの精検未把握率です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握が必要です。

【品川区】大腸がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく大腸がん検診の実施状況>

対象年齢(40歳以上)	している
検査方法(便潜血検査(二日法))	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	96,376	106,508	202,884
【東京都調査による対象者率(区部): 66.3%】			
実際の受診者数	11,989	19,289	31,278

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

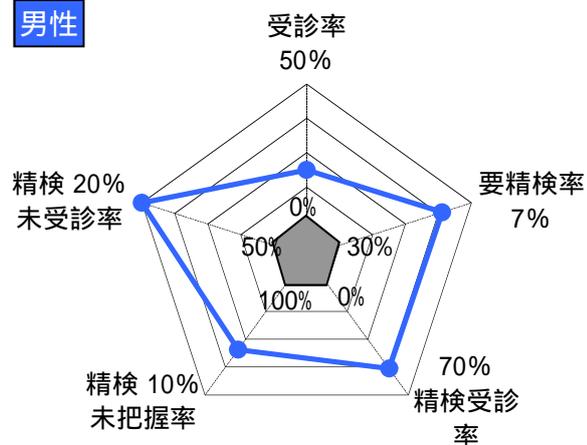
<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	一部該当
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

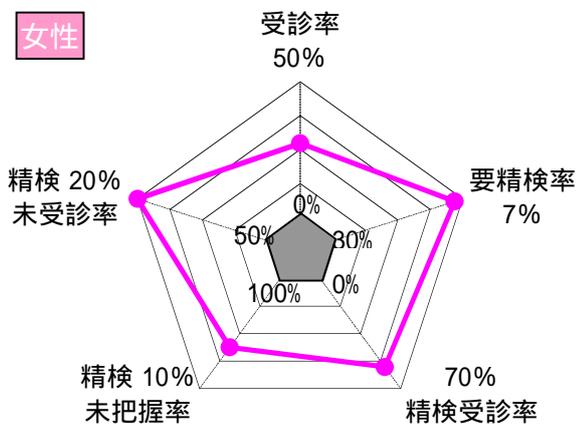
<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	18.8%	27.3%	23.3%
要精検率	7%以下	12.1%	8.4%	9.8%
精検受診率	70%以上	53.4%	56.3%	54.9%
精検未把握率	10%以下	46.6%	43.7%	45.1%
精検未受診率	20%以下	0.0%	0.0%	0.0%
陽性反応適中度	1.9%以上	3.4%	3.8%	3.6%
がん発見率	0.13%以上	0.41%	0.32%	0.35%

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

<精検未把握率>

精検未把握率が非常に高く、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、精密検査結果の把握方法を検討してください。

【品川区】子宮頸がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく子宮頸がん検診の実施状況>

対象年齢(20歳以上:隔年)	している
検査方法(細胞診)	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		163,431	
【東京都調査による対象者率(区部): 63.7%】			
実際の受診者数		13,804	

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

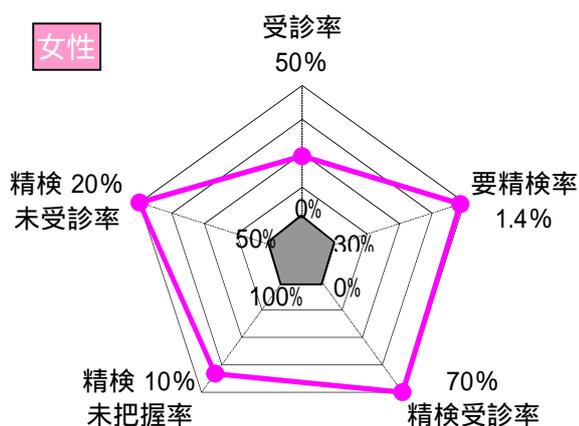
<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		24.0%	
要精検率	1.4%以下		2.3%	
精検受診率	70%以上		74.8%	
精検未把握率	10%以下		25.2%	
精検未受診率	20%以下		0.0%	
陽性反応適中度	4.0%以上		4.7%	
がん発見率	0.05%以上		0.11%	

【評価結果】



<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検未把握率>

高めの精検未把握率です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握が必要です。

【品川区】乳がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく乳がん検診の実施状況>

対象年齢(40歳以上:隔年)	している
検査方法(視触診及びマンモグラフィ)	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		106,508	
【東京都調査による対象者率(区部): 72.3%】			
実際の受診者数		7,796	

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	34,36,38歳
左記以外の検査の実施	超音波検査(上記年齢対象及び40歳以上の希望者に追加)

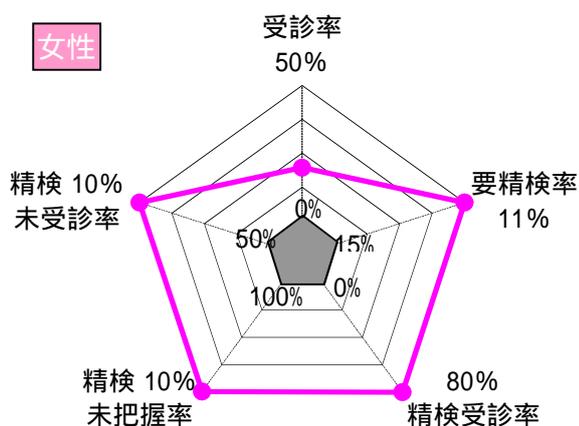
<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		19.7%	
要精検率	11%以下		4.5%	
精検受診率	80%以上		89.5%	
精検未把握率	10%以下		10.5%	
精検未受診率	10%以下		0.0%	
陽性反応適中度	2.5%以上		14.2%	
がん発見率	0.23%以上		0.64%	

【評価結果】



<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<精検未把握率>

精検未把握率が許容値達成まであと一歩です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握を進めましょう。